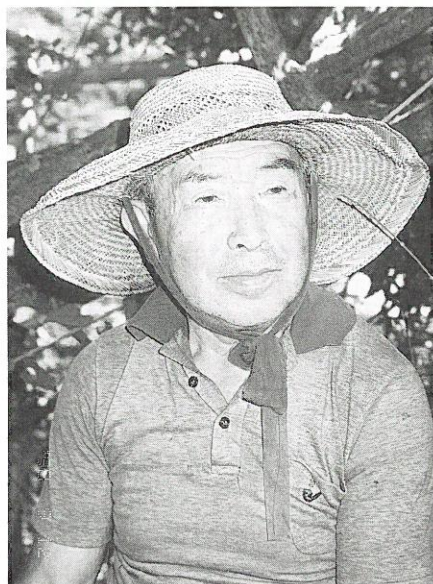


楽しく美しい まちづくり通信…⑬

古戦場跡と鉄橋



たか かつ
隆 勝 さん(72歳)
（米沢字下平）

十文字川が馬淵川と合流する所は「長瀬」と呼ばれ、米沢と金田一の境です。そしてこの周辺には先人の足跡をしのぶ宝がたくさん残っています。
天正十九年（一五九二）八月、今から約四〇〇年前、奥州街道の渡し場があったこの場所は、三戸城主南部信直の軍勢と九戸政実の軍勢が、川を挟んで戦った古戦場跡です。

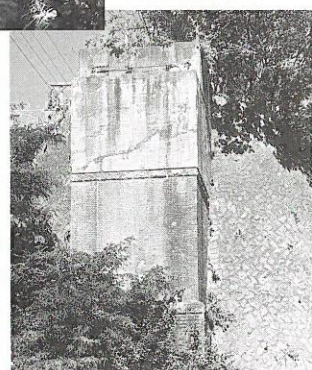
「ここが昔の国道で、そこに茶店が二軒あった。一〇〇軒くらい上流に大きくなるびの木があるが、そこがかつての渡し場で、舟場といっている。橋はこの道からまっすぐに架かっていたようで、向こう岸にその跡が残っている」と指さし、話してくれました。
最初の橋は、江戸時代に入っ

当時は橋がなく対岸へは舟で往来しなければならず、道としては無論、戦略上においても重要な場所だったと思われまます。
長瀬に住む平隆勝さんの家の周辺には街道の面影が残っています。

て間もなく架けられたものです。橋は水害により何度となく流失し、そのたびに架け替えられたようで、堀野側の河床で、橋脚の跡を確認することができました。
家のすぐ脇の街道跡には、橋を架けるときに、事故で亡くなった大工棟梁「中村初太郎」の供養碑がひっそりと建ち、嘉永七年（一八五四）寅九月二八日と刻まれています。
現在、平さん宅のほぼ真上に国道と東北本線が並んで橋となつて通っています。
近代的な橋と橋の間の崖際にある、今から百数十年前、明治二四年（一八九二）東北本線が開通した当時の橋脚跡は、数万個のれんがを千数個も積み上げ、その姿は美しく、一〇〇年以上たった今でも完全な形で残って

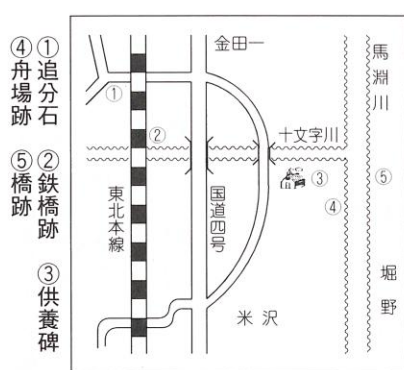


▲大工棟梁の供養碑



▶れんが積み橋脚（金田一側）

います。どれほどの日数と人手がかかったのか、考えただけで気の遠くなる思いがすると同時に、先人の残した素晴らしい技術に感動しました。
また、ここにも狐にまつわる言い伝えがあり、十文字川を境に「ととめきとらこ」と「なかせなわこ」の縄張りの境界である。



- 11日（日）カシオペア街づくり・住まいづくりプラザ（ワイン）にのへ
- 12日（月）
- 13日（火）3歳児健康診査（市保健センター）
- 14日（水）鉄道記念日
- 15日（木）2歳児歯科健診（市保健センター）、法律相談（市役所市民相談室）
- 16日（金）
- 17日（土）映画とお話の会（図書館、貯蓄の日）
- 18日（日）にのへ健康フェスティバル（ワイン）にのへ・二戸市農協農業技術センター、統計の日
- 19日（月）
- 20日（火）4カ月児健康診査・離乳食セミナー・中期（市保健センター）
- 21日（水）
- 22日（木）税務巡回相談（市役所市民相談室）
- 23日（金）市長と語る日（市長室、霜降（二四節気））
- 24日（土）二戸市産業まつり（農協ひろば・農業技術センター）
- 25日（日）

★10月★



10月11日～11月10日